

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 6年12月21日  
(139号)

# 中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊幸

「人は愛され救われ信じられて  
人になり愛を実践して生きていく」

今野 華都子 先生

(十一月度特別講義)



## ■痛みの中に入る

私は幼いときから体も弱く、ずっと「自分はどうして生まれ、どうやって死ぬだろう」と考えていました。学校ではそんなことは教えてくれません。多くの本を読むうちに、自分の知りたいのは、心や魂のことだと解ってきました。日本人が持っている大和魂とは、日（霊）に基づく生き方であり、大きく和して生きること。日本の神々は八百万の神で、それぞれに役割があり、しかも互いにリスペクトし合っていること。そのそれぞれがあるがままであることを一番貴いとし、調和していること。十か十一歳のときにそれらのことを子どもなりにノートに記しています。やがてそれは、ずつとのちに古事記との出会いに結びついていきます。

若い頃、大きな体験がありました。それは蓄膿症の手術のこと。手術中に緊急事態に陥り、慌てたお医者さんが麻酔無しで切開をしたのです。大量の出血に付き添っていた母はその場で倒れました。私はそのとき初めて、自分の身に起こることは、すべて避けられないことだと悟りました。この痛みから逃れられないのなら、どうしたらいいのか。静かに痛みの中に入っていく、という体験をするのです。「受けたもう」と、すべて受け入れる。痛みの中に入った最初の体験のあと、無事に生かしてもらったとき、人のためになることをし、人に喜ばれてお返しをしたい、と思いました。その後も三度の癌、脳梗塞、高い場所から落ちるなど死ぬ直前を体験したりしましたが、そのたびに「受けたもう」の体験となりました。

## ■従業員に育てられ

私は酪農家のもとに嫁ぎ、四六歳までは毎日牛の乳しぼりをしていたのですが、勤め人だった夫がリストラされ、急きよ子どもたちの学費を工面しなければならなくなりました。そうしてまつ毛パーマから始め、美容の世界に入ります。お客様と接する中で、良くなる人となかなか変わらない人がいる。考え方や生活の癖が顔に出ていて、それを解消しないうちはすつかりは良くなりません。これは技術の問題ではなく、心がどこをみているか？が重要だと気づきました。そんな中、技術のコンテストがあり日本一に、そしてまた二〇〇五年のコンテストでは世界一になります。

従業員のA子は常に無然とした態度でいつも私をいらだたせます。それでもこの子を育てようと思いました。実は育てられたのは私の方でした。私は挨拶やお茶の淹れ方を毎日自分がやって伝えました。そのうち少しずつA子は自分の話をしてくれるようになりました。彼女は母親を病気で亡くして傷ついていました。やがて彼女のお茶はだんだん美味しくなってきました。A子が来て三か月後、新しい子が入ってきました。

このB子は不器用この上ない子でした。A子は「あいつは役に立たないからやめさせましよう」と言っていました。しばらくすると辞めると言い出したB子に伝えました。「待ってるから。あなたのできるやり方を考えなさい」。社会で居場所がないと感じている人の居場所を誰が作るのでしょうか。

その後に入ってきたC子もお客様に怒鳴られ辞表を持ってきましたが、今も全員が協力し合い仕事を続けています。

## ■自ら働き自ら輝き自ら幸せになる

突如リゾートホテルの経営を任されることになりました。そこが三八億円の負債をかかえていることは後で聞かれます。これまでも錚々たるホテルマンが社長として就任し、数字が出

せずに次々に代わっていったというその場所に、全く何も知らない私が社長に就任したのです。当時社員は誰も自分の仕事以外のことはする気もなく、どうせ新しい社長もすぐに辞めるだろうと誰も私と関わろうとしませんでした。私は就任後全員と面談をし「このホテルがなぜ悪くなったか教えてほしい」と聞きました。さまざま理由が挙がりました。「ところでそれを誰が解決するのですか？現場を受け持つのは皆さんです。あなたはあなたの人生をここで生きる、と決めたからここにいます。それならばどうなり

たい？あなたの働きで幸せになる人がきつとたくさんいる、それを形にしたらどんなことができる？自分の人生がここにあるのなら、あなたの人生をここで私と一緒に良くしてみないか？私はそれがやりたい」と伝えました。

かつて「あおきパン」を焼いてコンクールで賞をとった社員がいました。私は彼に、誰もが自慢したくなるような美味しいパンと一緒に作るろう、と提案しました。彼は何度も何度も作り直し、いつも社長室の机には焼きたてのパンがありました。私は素人ですが、それを食してまた希望を伝えるのです。それを繰り返すうちに、ついに「これだ！」というパンが出来上がりました。

私が就任したときには、会議で足を投げ出しまるでやる気のなかった彼が、夜中の十二時に起きて仕事に入る前に試作品を作るのです。彼だけではなく、そうやってどんどん火のついた人たちが増えていき、自分たちが自ら働き、自ら輝き、自ら幸せになる環境が広がっていききました。私たちは、できないことを悔やみ、ときに人を恨むときもある。自分の人生を諦めることもあるかもしれない。でも私たちはみな、この地球上で望まれて生まれてきた。

みんな居場所がある。そのときに先に生まれた者が手を差し伸べ、居場所を作り、そして思い合い、和すること。それこそがこの国が持っている本当の力です。(抄録 中川千都子)

《グループ討議》 今野 華都子 先生

◆Aグループ

個性を活かして調和する。「和える」

裏に道あり花の山

自分育ては 人から育ててもらっている

◆Bグループ

相手の点数⇨自分の点数

「登賀米受」とがめず

問題とすることが問題

◆Cグループ

「登賀米受」とがめず

ゆるす

他人を受け入れ、良い所を見つけて、育てる

◆Dグループ

相手の評価は自分の評価

裏に道あり花の山

とがめることなく受け入れる

◆Eグループ

相手の点数が自分の点数

「思いやり」ではなく「思い合う」

従業員が一人も辞めない

◆Fグループ

「登賀米受」とがめず

先に生まれたものが場を作る、手を差しのべる  
こころの持ち方

◆Gグループ

痛みに入る 受けたもう

「思いやり」ではなく「思い合う」

従業員への態度(相手をゆるす、育ててもらっ)





## 第13期 読書会開催



Aグループ  
テキスト  
「ありがとうございます」  
指導 中川 千都子 代表  
進行 石黒 尚 塾生

内容 (四)無限の無限の安らぎが一杯  
151~181

151

人生の真の目的は、本心開発（真実の悟り）です。何事をしていても、本心開発に繋がらないものは、間違った道に迷い込んで、時間の無駄遣いをしているのです。一刻も早くそのことに気付かなければならないのです。

155

「ありがとうございます」という祈りの言葉の上には、一切の救済の神々の大光明が、常に燦然と輝くのです。そして、各々の心の器に合わせて、その時・その場に相応しい救済の光が投げかけられ、順次段階を追って、心の器をより大きく・より清らかに変化させて下さるのです。

162

今どのような運命・境遇・環境におかれても、本心の心（謙虚な心・感謝の心）を生きようとすれば、すべてをプラスにプラスに受け入れてゆくことができるのです。



Bグループ  
テキスト  
「一語一会」  
指導 近藤 宏枝 世話人  
進行 西村 俊幸 世話人

内容 一語一会 11月

十一月六日

要するに平生が大切です。このことを昔の人は「平生心是道」と申しています。つまり剣を持ったり、座禅をしている間だけが修行ではなくて、むしろ真の修行は、竹刀を捨て座禅を解いてから始まるというわけです。

十一月十七日

一体どうしたら思索と行動のバランスがとれるか。

第一に、物事をおっくうがらぬこと。  
第二に、つねに物事の全体を見渡す智慧を。  
第三に、物事の本質的順序を誤らぬこと。  
そして、これらの凡てを総括して行動的智慧和いう。

十一月二十九日

「わが子の教育には、母親は絶大な忍耐力がいる」

この点こそ、わが子の教育上、おそらくは最大最深の秘訣というべきかと思われる。

### 芳信抄

中之島ニュース138号ありがとうございます。石川真理子先生のお話、ちょうど鎌倉時代の日本が大きく変化する時代の大切なお話でしたね。「あるべきやうわ」は大変貴重なお話でした。今では、自由や多様性、個性が重んじられていますがまずこの「あるべきやうわ」が有ったの自由や個性なんですね。

桂誠司様（四国中央市）

一気に冬を迎え12月となりました。中之島ニュース、中川様のメッセージと共にを送りいただき、毎月届くのが楽しみです。私は歴史オンチだったので、数年前から日本の歴史、文化や人物などについて学ぶようになり、興味・関心を持つようになりました。石川真理子先生の「あるべきやうわ」、また新たな学びをいただきました。

阪手 揚子様（大阪狭山市）

### あなたの記事を掲載します

素晴らしい人財の宝庫「人間学塾・中之島」。  
イベントの広報や活動報告に「中之島ニュース」をご利用ください。  
(お寄せいただいた原稿は、編集部で字数調整する場合があります。)

寺田 一清先生に導かれて②③ 近藤 宏枝

「小さな一つをやりつづけよう」

思えば前身の「天分塾」から数えて二十一年目を迎えています。お陰様で多くの方々とのご縁を繋ぐことが出来ました。そんな中のお二人、岡山県倉敷在住の田口和義さん・順子さんご夫妻のお話を記したいと思います。

ご夫妻は「岡山掃除に学ぶ会」に所属されていて、私はご主人の田口さんとかつて「天分塾」で塾生として一緒にさせて頂いていました。それが今では、私が世話人を務めている「四国中央読書会」に年に一、二回ご参加下さっているのです。しかも参加される日は、掃除の会と重なるため早朝に掃除をしてから、車を運転して四国までお越し下さり、その学びの熱意には頭が下がります。更にお二人のご陰徳は、もう一つありました。私達の住む四国は、お大師様(弘法大師)の生誕の地であり「お遍路」の名称で親しまれている四国八十八箇所霊場がございます。これはお大師様がお訪ねになった所縁の地が霊場となっているのですが、他にもある所縁の地を「四国別格二十霊場」と呼び、私の住む市にも別格第十四番札所・常福寺(椿堂)があります。

様々な不思議なご縁から田口さん達は、このお寺のトイレ掃除を年に一度、十年間続けられていて、しかも今では読書会参加の日に合わせて下さっているのです。田口さんのお声掛けもあり、十一月の読書会の前に私もやっど一緒にさせて頂くことが出来ました。トイレは大便秘器が四つ、小便器が四つ、これをお二人で続けて来られたと思うと、地元に住む者として穴があったら入りたい気持ちです。

当日の朝は爽やかな青空が拡がり、絶好の「お掃除日和」です。ご住職様と田口さんの信頼のほどがご住職様の笑顔から窺えました。途中お檀家の方がトイレ掃除に来られるなど、慈愛の心あふれる場に居られるご縁に深く感謝致しました。

《人間学塾・中之島》次月案内

【一月日程】

◆日時 令和7年1月11日(土)午後1時

◆会場 大阪大学中之島センター

6階セミナー室 E F

◆講師 木南 一志 先生

株式会社新宮運送代表取締役



テーマ

「益はなくとも意味はある」

第13期宿泊研修 事前意向確認報告



日程 4月12日(土)〜13日(日)  
会場 「朴の森」(山口県)  
講師 鍵山 幸一郎 先生

先月今期の宿泊研修のご案内及び事前の意向確認を実施したところ、全員の皆様からご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。現在45名が参加の予定です。2月にあらためて最終参加確認と研修の詳細のご案内をいたしますので、よろしくお願いいたします。

塾生の西尾千恵子様がご逝去されました

天分塾の第十二期にご入塾され、今期で十六期目を迎えられました塾生の西尾千恵子様が、11月30日に急逝されました。人間学塾・中之島を愛され、「笑顔の伝道師」として多方面でご活躍されていました。感謝を込めて謹んでお悔やみ申し上げます

編集後記

十一月の今野華都子先生は、多くの聴講生を迎え、感動的なお話でした。「登賀米受」とがめず 赦すということは非常に力のいることです。赦すことで、自分も成長できるかもしれない。非常にすばらしい愛であふれかえる今野華都子先生でした。読書会も始まりました。時間の限られた中ですが、一緒の本を読み、感想を述べあう読書会は、この塾の特色でもあります。気づくと十二月。全く早いものです。このニュースがお手元に届くころは年の瀬もせまり、慌ただしいと思います。

いよいよ2025年を迎えます。皆様、よいお年をお迎えください。

編集長 西村俊幸

読書感想文の寄稿のお願い

人間学塾・中之島では「成形の功德」として、毎年、塾生の皆様に読書感想文を提出していただき、読書感想文集を作成しています。

締め切り 2025年1月末日

字数 800字以内

書物の内容 問いません

即今着手

一気呵成



編集部アドレス

2012nakanoshima@gmail.com